

平成27年度 研修紀要

第29号

翠 松

思考力・判断力・表現力等を育む指導の工夫

～振り返り学習に焦点を当てて～

沼田市立沼田東中学校

研究の概要

1 研修主題 思考力・判断力・表現力等を育む指導の工夫 －振り返り学習に焦点を当てて－

2 研修主題設定の理由

(1) 学校教育目標との関わり

本校では、学校教育目標として「敬愛（個性を尊重し合い、共に個性を生かし合って学ぶ）」「誠実（感謝と真心をもって実践する）」、生徒目標として「自発（自ら学び続け、考え、鍛える生徒）」「責任（責任のもてる判断・行動をする生徒）」「協力（知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒）」「礼儀（互いに気持ちよい生活を求め、実践する生徒）」を掲げ、確かな学力を身に付けさせる指導の工夫や充実を学校経営の重点の一つとしている。生徒目標のうち「自発」「責任」「協力」は、基礎学力の確実な定着を図るとともに、学習意欲や問題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を育てていくことを目指すものである。生徒は、これまでに習得した知識や技能を活用して、課題を解決するために思考や判断をして行動する。校内研修で振り返り学習を通して学びの自覚化に焦点を当てながら思考力・判断力・表現力等を育むことは、学校教育目標・生徒目標の具現化につながる。

(2) 生徒の実態との関わり

本校の生徒は、全体的に素直で明るく、与えられた課題に対して自力解決に取り組むとともに小集団では協力して課題解決を図っているようすがうかがえる。また、学力検査等の結果から基礎的・基本的な知識・技能はおおむね身に付いている。しかしながら生徒の多くが学習への構えが他律的であり、自ら進んで学習する主体的な学習態度に欠けている生徒が多い。

(3) 昨年度までの研修との関わり

昨年度は、協同的な学びを取り入れた問題解決的な学習が効果的に行われるようにするため、導入・課題提示、展開・グループ活用、まとめ・振り返りの3つの観点に視点を当てながら、生徒の思考力・判断力・表現力等の向上を図ることをねらいとして研究に取り組んできた。その中で、ねらいに迫るための「生徒が解決したくなるような課題」を設定する上でのポイントや協同的な学びを活性化させるための工夫点を明らかにすることができた。一方、振り返りにおいては、学習のめあてを授業の始めに明確にすることにより、授業最後での振り返りがしやすくなったが、振り返りの内容項目や形式を吟味し、生徒がその授業での学びや身に付けた力の自覚化ができるようにすることの必要性を感じた。そこで今年度は昨年度の研究を基に、振り返り学習に焦点を当て、生徒に思考力・判断力・表現力等を育てていく。

(4) 教職員の指導の在り方との関わり

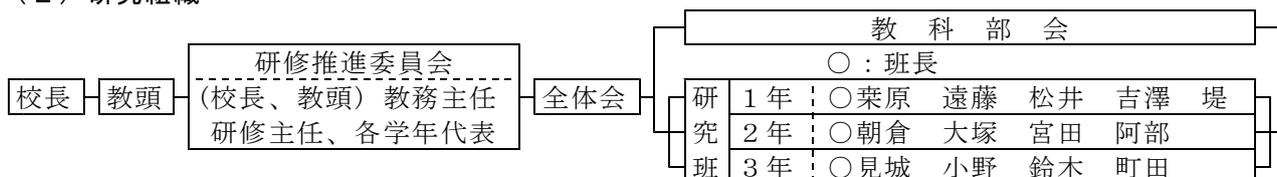
学習指導要領改訂の基本的な考え方に「思考力・判断力・表現力等の育成」が掲げられている。また、配慮する事項として、各教科等で言語活動の充実が示された。そこで、各教科等の指導に協同的な学びを取り入れ、思考力・判断力・表現力等の育成に効果的な指導の在り方について研究し、教職員の指導力の向上に努める。

3 研究の内容

(1) 研究のねらい

問題解決学習過程に協同的な学びを取り入れ、効果的な教師の支援や教材教具の工夫、身に付けた力の自覚化を促す振り返り学習などを加えながら生徒の思考力・判断力・表現力等の向上を図る。

(2) 研究組織



(3) 研究の経過

学期	月	内 容	研究の視点
1 学期	4 月	本年度の取組について	・ 主題、副主題、研修組織、研修計画、指導案形式等の策定
	5 月	本年度の研修の具現化	・ 協同的な学びに関する基礎学習

		A 訪問に向けて	・ 指導案形式の検討、各教科における「目指す生徒像」の策定
2 学期	6 月～ 12 月	研究授業と授業研究会	・ 効果的な「協同的な学び」、「教師の説明や支援」、「教材教具の工夫」の具現化
3 学期	1 月～ 3 月	研究のまとめ と次年度に向けて	・ 研究の成果と課題の確認

(4) 研究の概要 罫は、指導案検討 罫は、研究授業・授業研究会

月日	内 容	○研修の視点 (上段)	・ 明らかになったこと (下段)
6. 16	1年 英語 「Program3 ウッド先生 がやってき た」	罫 栗原教諭	○小グループによるクイズサロン(Who Am I?)において、活動前に振り返りの視点を提示し、活動後に振り返り学習を行うことは、答えを見つけるために出題者に積極的に尋ねたり、質問者の質問内容を理解して応答することができるようになる上で有効であったか。 ・ 自己評価カードを工夫することにより、ねらいに対する振り返りが効果的に行える。 ・ 振り返りの時間を確保するために、活動内容を精選していく必要がある。
6. 16	2年 音楽 「フーガの おもしろさ を味わおう」	罫 朝倉教諭	○協同学習は、パイプオルガンの多彩な機能による表現を感じ取らせるのに有効であったか。 ・ パイプオルガンについて調べたことは楽曲鑑賞を深めるのに効果的だった。 ・ 生徒の言葉で発表させたり、班でワークシートにまとめさせたりするとより効果的になる。
6. 17	2年 国語 「走れメロ ス」	罫 宮田教諭	○メロスの前に立ちはだかる困難・誘惑と、それを乗り越えた方法やそのときの心情を読み取らせ、3人の登場人物の3日間の善悪・陽陰の心情の変化をグラフで表すことが、登場人物の考え方や生き方を比べるというねらいを達成させる上で有効であったか。 ・ 前時までの復習活動が本時に向かうレディネスづくりに有効であった。 ・ それぞれの活動に対して必要な学習形態の選択を考える必要がある。
9. 29	2年 保体 「体づくり : 体力を高 める運動」	罫 遠藤教諭 大塚教諭	○目的を共有する仲間(部活動)での活動は、自己の体力に関心をもち、課題を解決しようとする意欲を高める上で有効であったか。 ・ 部活動の特性を生かすことのできる課題および意図的なグループ編成が生徒の活動意欲を高めることにつながった。 ・ ねらいに迫るための教材教具の設置および提示が生徒の主体的な活動を促していた。 ・ グループ活動をより充実させるために、個の考えをもたせる時間を確保する必要がある。 ・ 主活動を充実させるために、導入部分の効率化を図る必要がある。
10. 2	2年 英語 「Program5 Gulliver's Travels」	罫 吉澤教諭	○小グループで学び合い、発表し合うことは、自分の過去の出来事について英作文をつくる上で有効であったか。その過程での学習支援は、適切であったか。 ・ 個の考えをもたせる時間を確保したことがグループ活動の充実につながった。 ・ 協同学習を活発にするため、グループ内での発表のルールを決めておく必要がある。 ・ ヒントカードを提示する対象生徒とタイミングを工夫する必要がある。
10. 5	1年 数学 「一次方程式 の利用 (速さ)」	罫 松井教諭	○協同学習を取り入れた授業展開を行うために、設定した課題や追加課題は適切であったか。また、振り返りは適切であったか。 ・ 振り返りシートが1枚紙に累積されていると、記入と集積、単元全体での振り返りが効率よくできる。 ・ 授業中の見取りから、理解が不十分な生徒への対応を工夫していく必要がある。 ・ 振り返りシートで、視点のもたせ方を工夫し、どのようなことを書いていくかについて明確に指示していく必要がある。
10. 6	3年 理科 「物体のもつ エネルギー」	罫 鈴木教諭	○物体のもつエネルギーの変化を調べる実験において、どうしたらエネルギーを大きくできるかを予想・実験し、その結果を考察させたことは、物体のもつエネルギーの大きさが質量と速さに関係することを気づかせるのに有効であったか。 ・ グループ活動においては、個別支援だけでなく、グループの状況を見取っ

			<p>て行う支援が効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを行うことができるようにワークシートの形式を工夫することで、時間の確保や振り返りの習慣化が図れる。 ・課題に具体性があったり、解決してみたいと思う実例を挙げたりすることで、生徒の意欲が向上すると思われる。
10.14	3年 国語 「二つの詩を読み比べ、表現の特徴や効果について考え、批評文を書く」	見城教諭	<p>○詩に用いられている語句や描写・表現の仕方とその効果について、協同学習の場面を設定したことは、個の学びに有効であったか。また、振り返り学習は、生徒が本時の学びを自覚するために適切であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身に付けさせたい力」や「学習のゴール」を明記したことで、生徒にその単元での見通しをもたせることができる。 ・振り返りの時間の確保と視点を明確にしたワークシートの工夫が、ねらいを意識した「振り返り学習」をさせるために効果的だった。 ・全体の交流の場面で、対立意見を出させたり、揺さぶりをかけたりする仕掛けがあると、より考えが深まる。
10.15	3年 社会 「選挙のしくみと課題」	小野教諭	<p>○「なぜ選挙をする必要があるかを考える」活動は、ねらいを達成するために効果的であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点が明確であると、生徒が自分の言葉で記述しやすくなる。 ・生徒が葛藤するような意図的な揺さぶりを与えると振り返りの価値が高まる。 ・振り返りで生徒が書いた内容を発表させることで、学習のまとめや情報の共有になる。
10.30	2年 数学 「補助線を引いて問題を解こう」	町田教諭	<p>○「対頂角が等しい」「平行線の同位角、錯角が等しい」「三角形の内角の和の和は180°」の既習内容を確認してから問題を解かせたことは、補助線を必要とする角度を求める問題を解くのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題が、何通りもの解き方がある課題であり生徒が興味をもてた。 ・既習内容を確認したことにより、ねらいに適した振り返りができた。 ・学び合い学習がスムーズにいくように、話し合いの視点とグループ内の役割を明確にしていく。
11.10	2年 保体 「体づくり：力強い動きを高める運動（筋力、筋持久力）」	遠藤教諭 大塚教諭	<p>○目的を共有する仲間（部活動）での活動やトレーニングを紹介し共有したことは、運動プログラムを作成させる上で有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループのトレーニングを紹介し共有したことが、よりよい運動プログラムを作成しようという意欲につながった。 ・トレーニングの意義や効果を、自分たちで考え実践したことが、自分たちにとってより効果的な運動プログラムの作成につながった。 ・思考活動を活発にするために、思考する場面での具体的な視点を提示することが必要である。
11.13	3年 社会 「地方の政治と自治」	小野教諭	<p>○グループや全体での活動を振り返って自分の考えをまとめさせたことは地域の課題解決を地方自治の基本的な考えと結び付けて考えさせるために有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での役割分担の提示と話し合いの視点の明確化が活発な話し合いにつながった。 ・マッピングという方法が思考・知識の整理に効果的であるということが分かった。 ・本時の振り返りと単元全体の振り返りを1時間の中で両立させる際の工夫が必要である。
11/24	3年 理科 「地球の運動と天体の動き」	鈴木教諭	<p>○地球儀を使って太陽の動きを確認する実験は、太陽の動きを地球の自転と関連させながら、説明するのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジング課題の提示が、復習を行いながら自然に提示されていてわかりやすかった。 ・デジカメを使った振り返りの活動は生徒の思考を整理するのに効果的であった。 ・振り返りや考察の視点をもっと分かりやすく提示することが、よりよい振り返り活動につながる。
11/24	2年 音楽 「演奏者による表現の違いを味わ	朝倉教諭	<p>○グループ活動を取り入れて各演奏の特徴をとらえさせ、根拠に基づいて自分の「お気に入り演奏」を選択させたことは、演奏表現の多彩さを感じさせるのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の際の明確な視点が提示され、生徒が生き生きと交流する場が設定さ

	おう」		<p>れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート上に振り返りスペースが確保され、生徒が自分のことばで、学びや気づきをまとめられていた。 ・目的に応じた適切な学習形態の選択を吟味することが必要である。
12/2	2年 国語 「小学6年生のために『沼田東中学校辞典』をつくろう」	園 宮田教諭	<p>○ペアによる交流活動やグループによる交流活動は、集めた資料をもとに、具体的で効果的な説明の仕方を考え、小学6年生にもわかりやすい事典の下書きを書くことに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもたせ、学ぶ意欲が高まる適切なチャレンジング課題であった。 ・ペアによる交流、グループによる交流により学習に参加しない生徒がいなくなり、多様な意見をまとめて事典を作ることができた。 ・個人、ペア、グループによる学習活動に曖昧な点があったので、活動内容及び形態を明確にする。
12/15	2年 数学 「合同条件に合う理由を考えよう」	園 町田教諭	<p>○グループで問題を考え解かせたことは、複数の三角形から、合同な三角形を探し、どの合同条件に当てはまるかを見つけ、その合同条件になる理由を考えるのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を進める上でのルールを提示したことで、活動がスムーズに行われた。 ・学習形態が個人（自力解決）からグループ（協同学習）そして個人（振り返り）の流れは思考を促す問題解決に効果的だった。 ・学習内容によってはグループ活動以外の方法も有効である。
12/15	1年 英語 「My Super Monsterについて30語以上の英語で友だちに伝えよう」	園 栗原教諭	<p>○My Super Monsterについて30語以上の英語で友だちに伝える学習課題は生徒の学習意欲を高める課題として適切であったか。また学習活動への支援は適切であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあて（Today's Goal）とともに本時の流れを伝えることで、生徒は活動イメージができ、ゴールを見据えての学習につながった。 ・個人で取り組む時間を十分に確保し、できるだけ多くの机間支援で一人一人に助言をすることは、生徒の自力解決力を高める上で効果的である。 ・A規準である「文と文のつながり」を意識させるためには、モデル提示の段階または作成途中での全体への投げかけ、意識づけが必要である。
12/16	1年 数学 「平面図形」	園 松井教諭	<p>○既習事項を活用した学習課題は生徒の学習意欲を高めるのに適切であったか。また、学習支援は適切であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し難しくチャレンジしやすい課題設定であった。 ・振り返りシートが1枚紙に累積することで、まとめる時間で振り返りが行えていた。 ・ねらいから、チャレンジング課題、振り返りの展開において、ねらいと振り返りに差異があったので、その整合性を図っていく。
12/16	2年 英語 「先生が喜ぶプレゼントを考え、友だちに自分の考えを伝えよう」	園 吉澤教諭	<p>○先生へのプレゼントを考え、(give + 人 + もの)を使って相手に自分の考えを伝える学習課題は、適切なチャレンジング課題であったか。また、ねらいを達成するための協同学習は有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生へのプレゼントを考える」という課題は、生徒にとって身近で相手意識をもって取り組めるチャレンジング課題だった。 ・振り返りカードの文言が年間指導計画を生徒目線の言葉で書かれていた。1時間ごとのめあてに対する振り返りや、単元ごとのめあてに対する振り返りができる工夫があった。 ・協同学習の時間をもう少し長くするなど、時間配分の工夫が必要である。
3/22	2年 理科 「天気予報をしよう」	園 阿部教諭	<p>○明日の天気を予想させる課題を解決するのに、既習事項を適切に用いるよう指導できたか。またその課題は生徒が意欲的に取り組む内容であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をおさえてから、個別学習→グループ学習という流れは生徒の思考にそっており、活動しやすい授業展開であった。 ・明日の天気を予想することは、「課題が身近であること」「正解が翌日まで持ち越されること」などから生徒の意欲を喚起するうえで適切な課題であった。 ・振り返り活動に時間をかけられるように、内容を精選する必要がある。研究授業では時間が不足してしまい、次時にまわってしまった。

＜実 践 編＞

☆各教科における「目指す生徒像」

☆研究授業指導案

- ・ 国 語
- ・ 社 会
- ・ 数 学
- ・ 理 科
- ・ 英 語
- ・ 音 楽
- ・ 保 健 体 育

目指す生徒像（平成27年度）

沼田東中学校

目指す生徒像の全体像

理由や根拠をあげて自分の考えを説明したり、論述したりすることができる。また、それを通して、自分の考えを明らかにしたり、深めたりすることができる。

各教科・領域における目指す生徒像

国語	○相手に自分の考えを伝えるために必要な事柄を、目的に応じて選び、読みやすく分かりやすい文章を書くことができる生徒 ○文章の内容を正確にとらえ、気付いたり考えたりしたことを、理由や根拠を明らかにして述べるができる生徒
社会	○自ら課題を見つけるとともにその課題の解決に向けて、資料から必要な情報を取り出し、比較・関連付け、総合して考えたことを話し合い、発表、論述することができる生徒
数学	○数や式・図形の性質などの既習事項を活用しながら問題解決し、解決した方法や手順を、文章や図に表したりことばで説明したりして、ほかの人に分かりやすく伝えることができる生徒。
理科	○自然現象に興味をもち、意欲的に学習に取り組むことができる生徒 ○観察、実験において、予想を立て見通しをもつことができる生徒 ○観察、実験の結果を科学的な根拠をもとに自分の考えをまとめ、発表できる生徒
英語	○スピーチや対話を聞いたり、英文を読んだりして、相手の意向をとらえ、内容に関する質問に答えることのできる生徒 ○自分の意見や考えなどを、既習の表現を使って、話したり、書いたりして表現できる生徒 ○対話の中で、基本対話を基にして、互いに自分の意見や考えを伝え合うことができる生徒
音楽	○音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、強弱など）と曲想とのかかわりをふまえて、曲にふさわしい音楽表現を工夫して言葉で表せる生徒。また、音楽をその要素に基づく根拠をもって批評できる生徒。
美術	○作者の意図を作品から積極的に読み取ろうとする姿勢をもつ生徒 ○課題に対して、意図的に表現方法を選択できる生徒 ○鑑賞から感じたり考えたりしたことを言葉に表し説明できる生徒 ○他の意見に耳を傾け、自他の相違や共感によって、思考を深めることのできる生徒
体育	○運動の特性を理解し各種の運動に必要な練習計画が選択でき、自分の考えを論述できる生徒 ○運動の技能の向上や、体力向上における自己の課題を、能力に応じて解決できる生徒
技家	○習得した学習内容を今後の生活にどのように生かしていくか論述できる生徒 ・ ○製作の目的や工夫点について説明できる生徒 ○自分の生活を見つめ課題を発見し、解決するための工夫、創造ができる生徒
学級活動	○自己の考えや思いを自分の言葉で適切にまとめることができる生徒 ○考え方の違いや多様性のある個々の意見を、集団の意見としてまとめることができる生徒 ○実践や体験を通して感じたり気付いたりしたことを振り返り、書いたり、発表し合ったりすることができる生徒
道徳	○資料を読んで感じたこと、考えたことを自分の言葉で表現できる生徒 ○自分の考えを理由もつけて書いたり、発表したりできる生徒 ○友だちの意見に耳を傾け、自分の意見との相違をもとに思考を深めることができる生徒
総合	○体験したことや収集した情報を整理したり、分析したりして思考する活動へと高めるとともに、他者に伝えたりまとめたりして、自分の考えを明らかにすることができる生徒

国語科学習指導案

平成27年10月14日(水)第2校時

3年1組 教室 指導者 見城 朋子

授業の視点

- (1) **教師のようす**・詩に用いられている語句や描写・表現の仕方とその効果について協同的な学習の場を設定したことは、個の学びに有効であったか。
・振り返り学習は、生徒が本時の学びを自覚するために適切であったか。
- (2) **生徒のようす**・協同的な学習を通して、本時のめあてを達成することができたか。

1. テーマ：二つの詩を読み比べ、表現の特徴や効果について考え、批評文を書く。

※身に付けさせたい力「想像力」～さまざまな見方・考え方を知る～

※単元(本教材)を貫く言語活動「詩二編の批評文を書こう。」(学習のゴール)

2. 本時のねらい(予想される生徒・グループの姿とその支援)

(1) 詩二編に用いられている語句や描写・表現と、その効果について考える。

【協同的な学習の場面において】

(・各自が発表したことに対して意見の交流が見られないグループ

→語句や描写を挙げるだけでなく、効果についても自分の言葉で述べさせる。)

(・各自が発表したことに対して意見の交流が見られるグループ

→同じ語句や描写について、異なった意見があった場合はその根拠等についても交流させる。

(・交流が活発で、深まりが見られるグループ

→交流した意見をわかりやすく述べるために、内容の整理をさせる。)

3. 授業の流れ

(1) 【課題の提示】本時のめあて「詩二編に用いられている語句や描写・表現と、その効果について考えよう」を示す。

(2) 【課題追究Ⅰ】○前時に個々で考えた内容を確認する。

<グループ>

○グループ内で意見の交流をする。

(※司会役と簡単な流れについて指示はするが、形式的にならないようにする。)

(※言葉でのコミュニケーションを大切にさせる。)

○全体の場面での交流で発表することを確認する。

(※「正解」を出すのではなく、どのようなやりとりがあったかを整理する。)

(3) 【課題追究Ⅱ】 ○全体の場面で意見の交流をする。

<全体>

(※同じ語句・描写を挙げていても、異なる視点から捉えている意見があってもよいことを知らせる。ただし、語句の意味の捉え違いによる場合は訂正する。)

(4) 【振り返り】 ○めあてに沿って振り返りをする。

<個>

○数名に発表させる。

○次時の予告をする。

4. 成果と課題

【成果】

- ◎「身に付けさせたい力」や「学習のゴール」を明記したことで、生徒にその単元での見通しをもたせることができる。
- ◎グループ活動の基本的なルール（役割分担・進め方など）を示したことで、話し合いが活性化したり、生徒が参加意識をもって取り組んだりすることに繋がった。
- ◎振り返りの時間の確保と視点を明確にしたワークシートの工夫が、ねらいを意識した「振り返り学習」をさせるために効果的だった。

【課題】

- ◎意図的にグループ編成をすることや、グループ活動中の個別支援の仕方について、より綿密に考えておけると、全体の交流の場面や次時への支援に生きた。
- ◎全体の交流の場面で、対立意見を出させたりゆさぶりをかけたりする仕掛けがあると、より考えが深まった。

国語科学習指導案

平成27年12月2日(水)第3校時

2年1組教室 指導者 宮田淳子

授業観察の視点

- (1) **教師のようす**・集めた資料をもとに、具体的で効果的な説明の仕方を考え、小学六年生にもわかりやすい事典の下書きを書くことに、ペアによる交流活動やグループによる交流活動は有効であったか。
- (2) **生徒のようす**・観点にそって自分の考えと相手の考えをまとめて、わかりやすい説明の仕方を考え、描写を工夫することはできたか。

1 テーマ 来年度沼田東中学校に入学する小学六年生のために『沼田東中学校事典』をつくろう。

2 本時のねらい(予想される生徒の姿とそれへの支援)

ペアで、事典の下書きの解説文や構成やレイアウトを考えさせて、グループでお互いが書いたものを読み合って直し、他からのアドバイスをもとに下書きを手直し、清書する。

(書き方やレイアウトの仕方がわからないペアには、教師が見本につくった事典を見せて参考にさせる。)

3 授業の流れ

(1) [課題提示] 全体学習

本時のめあてを確認し、本時の授業の流れを説明する。

(2) [課題追究Ⅰ] ペア学習(言語活動の充実)

ペアで二つの見出し(ペアテーマ)の下書きの説明文や構成やレイアウトの仕方を考えて、事典の下書きをつくる。(ワークシート④)

(3) [課題追究Ⅱ] グループ学習(言語活動の充実)

下書きをグループ内で読み合って、改善点を指摘する。赤い付箋には直したほうがいいと思うところ、青い付箋にはよいところを書き、下書きのプリントにポスティングする。また黄色い付箋に自分が参考にしたいところを書き、自分たちのプリントにポスティングする。

観点チェックや推敲すべき点を提示し、改善点を指摘しやすいようにする。(グループ用ワークシート①)

(4) 振り返り (ペア学習)

推敲をもとに書き直そう。(ワークシート④) できたペアは清書しよう。

4 成果と課題

[成果]

- ◎目的により色分けした付箋を使うことで、効果的に推敲できた。
- ◎相手意識を持たせ、学ぶ意欲が高まる適切なチャレンジング課題であった。
- ◎ペアによる交流、グループによる交流により学習に参加しない生徒がいなくなり、多様な意見をまとめて事典を作ることができた。

[課題]

- ◎個人、ペア、グループによる学習形態の運営の仕方があいまいになっていたため、活動の仕方を明確にする。
- ◎下書きの段階なので作り上げるのではなく、作成する内容を精選することを目的とし、おおまかなレイアウトと内容を重視する。
- ◎教師の指示や投げかけの適切な量を考える。

社会科学習指導案

平成27年10月15日(木)第2校時

3年1組 指導者 小野達寿

授業観察の視点

- (1) **教師のようす** 「なぜ選挙をする必要があるかを考える」活動は、ねらいを達成するために効果的であったか。
- (2) **生徒のようす** 「なぜ選挙をする必要があるかを考える」活動をすることで、課題を解決することができたか

1 テーマ 選挙のしくみと課題

2 本時のねらい・予想される生徒の姿とそれへの支援

選挙の課題について、具体的な例や資料から、選挙に参加することの重要性に気づかせる。

Aの生徒：国民主権・参政権ともに関連して考えている

Bの生徒：憲法の基本原則「国民主権」または「参政権」に関連して考えている ← 基本原則や権利との関連を示す

Cの生徒：権利と関連させて考えられない ← 既習の教科書のページやプリントを示す

3 授業の流れ

(1) [課題提示] 選挙の課題「若者の投票率の低下」から選挙に参加する重要性について考える。

→「あなたは2018年の総選挙に投票するか？」

(2) 選挙の基本原則と選挙制度について学習する。(一斉学習)

(3) [課題追究Ⅰ] 個人学習

なぜ選挙に参加する必要があるのかを考える。

(4) [課題追究Ⅱ] グループ学習(言語活動の充実)

①意見交換しながら、グループでまとめ、重要だと思うものを2つまでに絞る。

②グループごとに発表する。

(5) 振り返り

①「選挙に参加することの重要性」を自分の言葉で表現する。

②有権者になって初めて行うであろう2018年総選挙への投票の意思を確認する。

4 成果と課題

<成果>

◎生徒へ提示した課題：生徒との関わりがある、身近なものが学習の意欲を高める。

◎基礎的事項の指導：課題の解決には既習事項を学習に生かすことが重要である。

◎振り返りの視点：明確であれば、生徒が自分の言葉で記述しやすくなる。

◎授業形態：一斉 → 個人 → グループ → 個人 が機能する。

<課題>

◎ 振り返り学習を充実させるための工夫

・教師がねらいをおさえるために、視点を明示することでより充実したものになる。

・生徒が葛藤するような意図的な揺さぶりを与えると振り返りの価値が高まる。

◎振り返りをさせた後の生徒の意見の広め方

・自分の考えの根拠を記述させた方がよい。

・たとえ一人でも発表させる方が、学習のまとめや情報の共有になる。

社会科学習指導案

平成27年11月13日（金）第5校時

3年1組 教室 指導者 小野 達 寿

授業の視点

「グループや全体での活動を振り返って自分の考えをまとめさせたこと」は「地域の課題の解決を地方自治の基本的な考え方と結び付けて考えさせる」ために有効であったか。

1. 題材名 「地方の政治と自治」

2 考察

(1) 題材観

本題材は学習指導要領の公民的分野「(3) 私たちと政治ーイ」の「地方自治」にかかわるものである。そのねらいは、地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること、そして、このような住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であることを理解させることにある。

わが国の地方自治は、都道府県と市町村という二段階の制度をとっており、誰もが都道府県と市町村の二つの地方公共団体に属している。国の政治に対し、わたしたちにとって身近な政治が地方自治である。本題材では、地方公共団体の働き・首長と議会の関係・地方財政のしくみと課題、直接請求権などの住民の権利、住民の声を反映させるための政治参加などの学習を通して、地方自治の基本的な考え方とその仕組みを理解する。

地方自治は「民主主義の学校」と呼ばれているが、より地域に密着した政治を行っているのは市町村である。そこで、本題材では地方自治をより身近に感じさせるために沼田市の政治を扱いながら学習を進めていく。歳入や歳出の内訳・市町村合併など具体的な事例を学ぶことによって、学習内容がより深まり、地域の政治に対する関心も高まっていくものと考えられる。

地域の課題を地域住民の手で解決させようとする考え方が住民自治である。このことを理解させるために、「沼田市を活性化させる対策を考えよう」という課題を設定し、沼田市の実態をふまえた対策を考える。この対策を市当局へ提案したい。こうすることで生徒の学習への意欲はより高まり、地方自治への理解が深まると考える。生徒が地域の課題を解決する学習を通して自分たちの課題を自分たちで解決しようとする住民自治の考え方を理解させたい。また、住民自治は積極的な政治参加でもある。これは日本国憲法で規定する「国民主権」の行使にあたると考えている。さらに、公職選挙法の一部改正により選挙年齢が18歳に引き下げられたこととの関連性も深い。なぜならば、生徒の中で最も早く選挙権を行使する者は2018年4月に行われる沼田市長選となるからである。このような今日的観点から見ても、本題材は民主主義の学校として政治を学ぶのに適した題材といえる。

以上のように、地方自治を通して主権者として政治に参加することの意義を自覚させ、住民としての自治意識を高めるために、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級は男子13名、女子17名の30名からなる。うち1名は特別支援学級より通級している。本題材に関するアンケートを実施した。結果は次のとおりになった。

1. 国の政治への関心はありますか？

①ある 7 ②少しある 12 ③あまりない 8 ④ない 2

2. 沼田市の政治に関心はありますか？

①ある 3 ②少しある 14 ③あまりない 9 ④ない 3

3. 新聞を読みますか？

①よく読む 2 ②たまに読む 9 ③ほとんど読まない 12 ④取っていない 6

4. テレビのニュースは見ますか？

- ①毎日見る 2 2 ②毎日ではないが見る 4 ③あまり見ない 2 ④ほとんど見ない 1
5. 沼田市の広報は読みますか？
 ①よく読む 3 ②たまに読む 9 ③ほとんど読まない 1 1 ④読まない 6
6. 現在の沼田市長名を知っていますか？
 ①知っている（名前を書ける） 2 7 ②知らない 2
7. 将来沼田市に住みたいと思いますか？
 ①住みたい 1 5
 理由：自然環境がよいから 自分が育った場所だから 災害が少なく安全だから
 地元で貢献したいから
 ②住みたくない 4
 理由：都会で働きたいから 一度は市外に出て住みたいから 働く場所がないから
 ③分からない 1 0
8. 現在の沼田に要望することは何ですか？（自由記述）
 沼田城の再建（「戦国無双とのコラボ」 1） 3 人口・観光客を増やす工夫を 1
 市の活性化（シャッター街への対策 3 グリーンベル整備 3 活気のある街に 5） 1 1
 真田氏をアピール 1 文化会館の建て替え 1 交通の整備 1 高校の義務化 1

<社会的事象への関心・意欲・態度>

国の政治への関心がある生徒が多かったが沼田の政治への関心は少なかった。この結果は情報量の差と思われる。つまり、国政の情報は新聞やテレビのニュース番組での報道を通して毎日たくさん得ることができるのに対し、市政の情報は広報や市ホームページなどから得るしかなく、市政の情報が少ないからである。実際、市の広報を読んでいる生徒は少ない。しかし、「関心がある・少しある」生徒が約6割を占めており、関心をもっている生徒の方が多いと判断できる。市長名はほとんどの生徒が知っており、漢字で書いている。

<社会的な思考・判断・表現>

自分の考えを自分の言葉で表現できる生徒が増えてきている。しかし、用語を活用したり、適切な根拠を示して論理的に表現したりできる生徒はまだ少ない。記述の仕方や表現方法を支援し、簡潔な表現方法ができるように指導する必要がある。

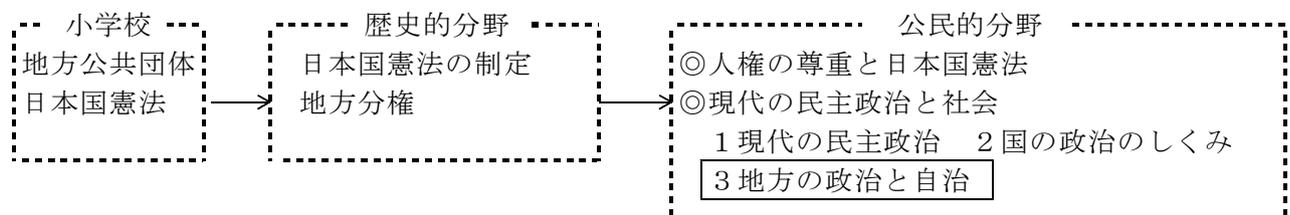
<資料活用の技能>

提示した資料から必要な情報を読み取る力は、ほとんどの生徒が概ね満足できる規準に達している。政治の情報は新聞よりもテレビのニュース番組から多く得ていることが分かる。

<社会的事象についての知識・理解>

将来、沼田市に住みたいと考えている生徒が15名いるが、その理由は沼田市の特徴を理解した上で回答している生徒が多い。また、沼田市への要望も、現在抱えている市の課題を理解して回答している生徒が多いことが分かる。

(3) 題材の系統



3 指導方針

- ◎習得すべき基礎的・基本的事項が分かるようにするために教師作成のプリントを使用する。
- ◎重要な語句は赤や黄色で板書し、基礎・基本となることがらが生徒に分かりやすいようにする。
- ◎机間支援を通して学習に集中できない生徒や遅れがちな生徒への個別指導を行う。
- ◎課題を生徒の身近なものとするために、次の沼田市の資料を活用する。

沼田市の地方公共団体としての仕事 沼田市の組織図 沼田市の予算・決算など統計資料

沼田市の広報 住民からの請願 など

- ◎地方自治と住民とのかかわりを分かりやすくするためにマッピングを作成する。毎時間の振り返り学習の場で作成する。学習の積み重ねが分かるように色を変えて記述させる。

<校内研修との関連>

- ◎課題について（第5時・6時）「沼田市を活性化させる対策を考えよう」

設定理由：地方自治への関心を高めるため。

提案内容：沼田市の課題をもとに、多面的・多角的に考える。

提案：個人で考えた提案を理由を明らかにしながら、相手に伝わるように表現する。個人の提案をもとにグループで一つにしぼり全体に発表する。提案理由を明らかにする。

- ◎グループ学習について

目的：学び合うことで思考の幅を広げたり、表現力を高めたりするため。

構成：教室の座席を生かす。

人数：4～5人とし、7グループつくる。

司会：順番で行う。発表する場合は司会以外の者が行う。

- ◎振り返り学習について

本時では、学習のまとめとして、グループで話し合ったことや他のグループの発表をもとに、自分の考えを記述させる。グループや全体での学び合いが思考の幅を広げ、思考力・判断力・表現力の向上に結び付くものとする。

<授業中における生徒指導>

- ①生徒が学習に参加している満足感を得られるような場を設定する。（自己存在感を与える指導）
- ②生徒の指名には敬称をつけたり、生徒の個性を理解した支援をしたりするなどの指導を行う。（人権教育への配慮）
- ③思考場面では自分の判断で自分の考えを記述させるようにする。（自己決定の場を与える指導）
- ④友だちの発言をしっかりと聴き、意見を認める雰囲気をつくる。（共感的な人間関係を育む指導）

<道徳教育に関する方針>

◇指名されたら必ず返事をさせ、返事のない生徒や返事が小さい生徒には再度指名する。

◇授業の開始と終了時には、姿勢を正してあいさつさせる。

◇道徳の価値項目との関連

- ・法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。（4－（1））
- ・地域の一員としての自覚をもって郷土を愛す。（4－（8））

4 題材の目標

- 住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方公共団体の政治のしくみ、地方財政のしくみなどについて理解させる。
- 自分たちが住む地域社会への関心を高め、住民の一人として、地方自治の発展に寄与する自治意識の基礎を育てるとともに、主権者としての政治参加の在り方について考えさせる。

5 評価規準

<社会的事象への関心・意欲・態度>

自分たちが住む地域の政治について関心をもち、意欲的に自分たちにできることを提案したり、政治参加の方法について考えたりしている。

<社会的な思考・判断・表現>

住民自治や地方分権の考え方について、既習事項をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。

<資料活用の技能>

地域の課題や地方財政の変化について、適切な資料を収集・選択し、複数の資料を比較したりしながら読み取ったり、図表などにまとめたりする。

<社会的事象についての知識・理解>

地方自治の政治のしくみについて理解するとともに、地方財政のしくみや地方財政上の課題について理解し、その知識を身に付けている。

6 学習計画および評価計画 (本時は6時間目)

学習活動	時間	評価項目 (方法) ○概ね満足 ☆十分満足	評価の観点			
			関	思	技	知
1 わたしたちと地方自治 ①地方公共団体の役割について調べ、まとめる。 ②沼田市の課題を市の広報などから考える。 ③マッピングをしながら学習活動を振り返る。	1	○地方公共団体の仕事を理解するとともに、地方分権の考え方について理解している。 ☆地方公共団体の仕事を理解するとともに、地方分権の考え方について理解し、自分の言葉で説明できる。 (ワークシート 発表)				○
2 地方自治の制度 ①地方自治のしくみ(地方議会と首長との関係)について調べ、まとめる。 ②マッピングをしながら学習活動を振り返る。	1	○地方自治のしくみを、地方議会と首長の役割を中心に理解している。 ☆地方自治のしくみを、地方議会と首長の役割を中心に理解し、自分の言葉で説明できる。 (ワークシート 発表)				○
3 地方財政 ①沼田市の財政資料から、地方自治における財政上の課題を話し合い、解決方法について考える。 ②マッピングをしながら学習活動を振り返る。	1	○統計資料から地方財政の歳入や歳出を読み取り、財政上の課題を考えている。 ☆統計資料から地方財政の歳入や歳出の変化を読み取り、自分たちの暮らしに結び付けて考えている。 (ワークシート 観察 発表)			○	
4 住民参加の拡大 ①住民参加の方法を調べる。 ②政治参加の方法との関連を考える。 ③マッピングをしながら学習活動を振り返る。	1	○自らの政治との関わりについて、多面的・多角的に考えている。 ☆自らの政治との関わりについて、多面的・多角的に考え、既習事項の政治参加の方法と結び付けて考えている。 (ワークシート 発表)		○		
5 わたしたちの政治参加1 ①課題「沼田市を活性化させる対策を考えよう」実態を調べ、対策を考える。 ②マッピングをしながら学習活動を振り返る。	1	○沼田市の街づくりに関心をもち、沼田市の活性化を考える活動を行っている。 ☆沼田市の街づくりに関心をもち、沼田市の活性化を考える活動に意欲的に取り組んでいる。 (ワークシート 観察)	○			
わたしたちの政治参加2 ①グループで話し合い、対策を一つにしばり発表する。 ②学習活動を振り返る	1 本時	○地域の課題の解決を住民自治や政治参加などと結び付けて考え、表現している。 ☆地域の課題の解決を住民自治や政治参加などと結び付けて考え、さらに国民の権利にも結び付けて考え、表現している。 (ワークシート 発表)		○		

7 本時の学習

(1) 本時のねらい：「沼田市を活性化させるための対策を考える」活動を通して、地域の課題の解決を地方自治の基本的な考え方に結び付けて考えさせる。

(2) 準備するもの 教師：教科書 資料集 用語集 学習プリント 市の資料
 生徒：教科書 ファイル 資料集 用語集

(3) 本時の展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項
導入	1. 本時の学習課題の確認	3	・活動の学習手順の確認 学習課題「沼田市を活性化するための対策を考える」
展開	1. 自分の考えを再考 ＜個人での活動＞ ・前時の個人の対策案を教師の助言をもとに再考する。 市の現状→考えた対策→対策の効果 ☆支援：的確な助言を生徒各自のワークシートに記述しておく	5	
	2. グループの話合い ＜グループ活動＞ ①個人の対策を提案する。 ☆支援：発表の手順をワークシートに記載（自分の考え→提案理由→期待される効果） ②グループ協議 ☆支援：次の視点を明示し個人の提案を一つにしぼる。（黒板に視点を掲示） a 実現可能か（予算・時間・場所など） b 市民全員に利益はあるか ☆支援：話がまとまらないグループには視点の a にしぼって考えさせる。 ・話合いの結果をホワイトボードに記入（班の提案→提案理由→期待される効果）	20	
	3. 発表 ＜全体での活動学習＞ ◎グループごとに提案 ・発表方法：しぼった提案→提案理由→期待される効果 ・疑問があったら質問する：質問は全グループの発表後に行う。回答するのはグループの誰でもよい ・一つにまとめられなかったグループは、話合いの現状を報告する。 ☆支援：掲示したホワイトボードを類型化し、グループで考えた視点が「効率と公正」や「公共の福祉」にあたることを示唆する。	7	
まとめ	1. 授業の振り返り	15	＜個の活動＞ ①マッピングをしながら本時の学習を振り返る。 ②地域の課題に解決を既習事項である地方自治の基本的な考え方と結びつけて考え、記述させる。 （生徒が作成したマッピングを使用させる。） ＜評価項目（社会的な思考・判断・表現） 観察 発表 学習プリント＞ Cの反応 <何も書けない>←支援：書き出しのヒントや書き出しの文言を明示する。 <視点が不明瞭>←支援：既習事項を教科書や学習プリントで明示する。 地方自治をマッピングから別の語句におきかえて表現させる。 Bの反応（概ね満足）地域の課題の解決を住民自治や政治参加などと結びつけて考え、表現している。 ↑ 支援：政治参加を国民の権利と結び付けて考えさせる。 Aの反応（十分満足）：国民の権利にも結び付けて考え、表現している。
	2. 発表 3. 授業のまとめと次時の予告		・挙手させて、発表させる。（机間支援で把握しておく） ・発表内容をもとに本時の授業をまとめる。 次時の予告

<予想される生徒の振り返りの姿>

- C ① 地域の課題の解決は、地方自治とつながっている。
地方自治を自分でどのように考えたのかについての表現がない
- B ① 地域の課題の解決は、住民が努力して解決しようとする住民自治の考え方に基づいている。
地方自治の考え方を別の語句で表現している
。だから積極的に政治に関わることが重要である。
政治参加についての記述がある
- ② 地域の課題を自分たちで解決することは、住民が自ら参加して解決するという住民自治の
考え方に基づいている。
地方自治の考え方を別の語句で表現している
- A ① 地域の課題を自分たちで解決するには、住民自治や住民の積極的な政治参加が大切である。
地方自治の考え方を理解した表現となっている
それは憲法で規定する国民主権の行使にあたる。
権利との関係に結びつけて考えられている。(その他に、有権者・請願権などの
記述も権利との結びつきを考えている。)

8 成果と課題

<成果>

- ◎身近で生徒が興味をもちやすい課題がチャレンジングな課題となる。
- ◎グループ内での役割分担の提示と話し合いの視点の明確化が、活発な話し合いを行わせることになる。
- ◎マッピングという方法が思考・知識の整理に効果的であることがわかった。

<課題>

- ◎ 振り返り学習を充実させるための工夫
 - ・ 本時の振り返りと単元全体の振り返りを1単位時間の中で両立させる際の工夫が必要である。
- ◎ グループ内での提案を一つにまとめる際、絞り込みの観点や手だての工夫が必要である。

数学科学習指導案

平成27年11月6日(金) 第5校時
2年2組 教室 指導者 町田 実

授業観察の視点

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 教師のようす | ・問題を解くための既習内容は、問題を解くための支援に有効であったか。
・つまづいている生徒に適切な支援ができたか。 |
| (2) 生徒のようす | 個で問題を解決できなかった生徒が、グループになって問題を解決できたか。 |

1 テーマ 補助線を引いて問題を解こう！

2 本時のねらい・(予想される生徒の姿とそれへの支援)

- 「対頂角が等しい」「平行線の同位角、錯角が等しい」「三角形の内角の角の和は 180° 」を利用し補助線を引き、問題を解くことができる。

問題が解決できない生徒：教師が個別またはグループごとに補助線の書き方を支援する。

問題が解決できた生徒：友達に解き方を説明させたり、問題演習やチャレンジ問題を解かせる。

3 授業の流れ ※「証明」の意味、方法については、三角形の合同の単元で指導する計画である。

(1) [課題提示] 本時のめあてを掲示し、既習内容を確認した後、問題を提示する。

(2) [課題追究Ⅰ] 個々に問題を解かせ、問題が解決できた生徒は問題②をさせ、問題が解決できない生徒にはホワイトボードを活用して視覚的に支援する。

(3) [課題追究Ⅱ] グループで問題を考えさせ、自分の考えを説明させる。グループ全員が問題を解決できたら、問題②・チャレンジ問題を考えさせる。

(4) [課題追究Ⅲ] 問題①、問題②の(1)(2)を代表者が説明する。

(5) [振り返り] 授業で学んだこと、分かったことを自分の言葉で書き振り返る。

4 成果と課題

[成果]

- ◎学習課題が、何通りもの解き方がある課題であり生徒が興味をもてた。
- ◎既習内容の確認したことにより、ねらいに適した振り返りができた。
- ◎学び合い学習で、各グループへの支援により、話し合いが活性化した。

[課題]

- 学び合い学習をスムーズにいくように、話し合いの視点とグループ内の役割を明確にしていく。
- 本時のめあてを設定するときに、生徒の実態を十分に把握することが大切である。

数学科の実践Ⅱ

平成27年度10月5日(月)第5校時
1年2組教室 指導者 松井 太郎

授業観察の視点

(1) 教師のようす

協同学習を入れた授業展開お行うために、設定した課題や追加課題は適切であったか。
また、振り返りは適切であったか。

(2) 生徒のようす

ペア学習、全体学習、個人学習の流れで協同学習を取り入れたことは、ねらいを達成するために有効であったか。

1 テーマ 一次方程式 ～一次方程式の利用 速さ～

2 本時のねらい・(予想される生徒の姿とそれへの支援)

道のりと時間を求める文章問題から1次方程式を立式し、解くことができる。

- (1) 「立式することができない」→言葉の式と数直線。道のり速さ時間の関係式を見直させる。また、周りの友達にヒントをもらうように指示をする。
- (2) 「立式するが解答にたどり着かない」→何を文字でおいて、何を求めようとしているか考えさせる。また、単位に注目させる。
- (3) 「立式し解くことができる」→自分に合った類題を選び課題に取り組む。

3 授業の流れ

(1) [課題の提示] 速さの問題を一次方程式を使って解こう。

(2) [課題追及Ⅰ] ①ペア学習→②全体学習→③個人学習

①道のりを求める問題で、数直線の数値を埋める作業や何と何を「＝」にすればよいかを、隣や周りの人と相談しながら考える。理由も考えさせる。

②数直線を全体で確認し、立式する。

③方程式を解き解答する。

(3) [課題追及Ⅱ] ①ペア学習→②全体学習→③個人学習

①時間を求める問題で、数直線を埋める作業や何と何を「＝」にすればよいかを、隣や周りの人と相談しながら考え言葉の式にさせる。

②数直線を全体で確認し、立式する。

③方程式を解き解答する。終わったら、演習問題に取り組む。

(4) 振り返り

振り返りシートに本時の「めあて」と、授業の「まとめ」を書き込む。

4 成果と課題

[成果]

◎協同的な学びが個の学びにも有効に作用し、気づきや納得につながっていた。

◎振り返りシートが1枚紙に累積することを続け、まとめる時間で振り返りが行えていた。

[課題]

●ペア学習など、協同学習の時間が多く、個が思考する時間の確保がもっと多く必要だった。

●本時のめあてを、教師主導ではなく、生徒から出せる工夫で生徒主導にできるよい。

理 科 学 習 指 導 案

平成28年3月22日（火）第1校時

2年1組教室 指導者 阿部 政

授業観察の視点

- (1) **教師のようす** 明日の天気を予想させる課題を解決するのに、既習事項を適切に用いるよう指導できたか。
- (2) **生徒のようす** 天気図と既習事項をもとに気象学的な視点から、天気予報に取り組んでいたか。

1 テーマ 天気の変化・明日の天気を予想しよう

2 本時のねらい

- (1) 今まで学習してきた天気に関する学習内容をふり返る。
- (2) それをもとにして、明日の天気を予想する。

3 授業の流れ

- (1) 【全体学習】低気圧、前線、日本の天気の特徴などの既習事項をふり返る。
- (2) 【全体学習】天気予報のポイントを説明する。
- (3) 【全体学習】実際の天気予報（TV映像）を見る。
- (4) 【課題追究・個別学習】
まず、自分だけの考えで天気予報をする。
- (5) 【課題追究・グループ学習】
次に、各自の考えを持ち寄って、グループで話し合いを行い、グループとしての天気予報をまとめる。各班ごとに予報を発表する。
- (6) 振り返り

<成果>

- ◎既習事項をおさえてから、個別学習→グループ学習という流れは生徒の思考にそっており、活動しやすい授業展開であった。
- ◎明日の天気を予想することは、「課題が身近であること」「正解が翌日まで持ち越されること」などから生徒の意欲を喚起するうえで適切な課題であった。

<課題>

- 視聴覚教材の提示の方法を工夫して、より効果的な使用方法を模索する必要あり。
- 振り返り活動に時間をかけられるように、内容を精選する必要がある。研究授業では時間が不足してしまい、次時にまわしてしまった。

理科の実践Ⅱ

平成27年10月6日(火)第6校時

3年1組理科室 指導者 鈴木 元気

授業観察の視点

- (1) **教師のようす** 実験を行う前の課題の持たせ方、実験方法の確認は適切であったか。
- (2) **生徒のようす** 協同的に実験を行うことで、課題の解決をすることができたか。

1 テーマ 物体のもつエネルギー

2 本時のねらい

実験を通して、物体のもつエネルギーは質量と速さに関係することに気づく。

- 「実験を進められない」生徒→実験中に机間支援を行い、実験方法を確認したり、演示したりする。
- 「質量、速さのいずれか片方しか気づけていない」生徒
→実験のわかることを整理し、他にもわかることがないか考えさせる。
- 「物体のもつエネルギーの関係性に気づけている」生徒
→わかりやすい表現で考察が書けるように助言する。

3 授業の流れ

- (1) [課題提示] 「物体のもつエネルギーは、どんなときに大きくなるのか調べよう」
 - ・物体が他の物体を動かしたり、形を変えたりすることができるとき、その物体はエネルギーをもつことを確認する。
 - ・教科書の写真を見たり、部活動などの運動のときを思い出させたりする活動を行い、どんなときに物体のエネルギーが大きくなるかと発問し、予想を立てさせる。
 - ・実験の方法について説明をし、見通しを持たせる。
- (2) [課題追究Ⅰ] <班別活動> 実験 物体のもつエネルギー
 - ①キャップを並べる
 - ・10個のペットボトルキャップを、台紙の上にポーリングのピンのように並べる。

②動いたキャップの数を調べる

- ・粘土を1/3ほど入れたキャップをはじき、はじいたキャップの速さと動いたキャップの数を記録する。これを何度か繰り返し、記録する。

③はじくキャップの質量を変える

- ・はじくキャップの粘土をいっぱいまで入れて重くし、②と同様の実験を行う。

④結果からわかることを、表現させる

(3) [課題追究Ⅱ] <全体交流> 考察の発表

この実験からわかることを班で話し合い、まとめたものを発表する活動を行うことで、物体がもつエネルギーは質量と速さが関係することを明らかにする。

(4) 振り返り

今日の授業を振り返り、めあてに対してわかったことや実験を行って気づいたことを記述させる活動をおこなう。

<成果>

- ◎グループ活動においては、個別への支援だけでなく、グループの状況を見取って行う支援が効果的である。(グループの進行具合がわかりやすいような工夫)
- ◎ワークシートの形式を振り返りを行うことができるように作成することで、時間の確保や振り返りの習慣化が図れる。

<課題>

- 課題に具体性があったり、解決してみたいと思う事例を挙げたりすることで、生徒の意欲が向上すると思われる。
- 振り返り活動に時間をかけられるように、内容を精選する必要がある。
- グループでの活動にはルールをもうけ、全員が活動できる工夫や班構成を工夫する必要がある。
- 結果や考察など多岐にわたる考えが出る実験は、板書計画を見直してキーワードに迫れるような発問やプリントへの記述が必要である。

英語科の実践 I

平成27年12月15日(火) 第6校時

1年1組教室 指導者 栗原秀明

吉澤紗代

授業観察の視点

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 教師のようす | My Super Monsterについて30語以上の英語で友だちに伝える学習課題は生徒の学習意欲を高める課題として適切であったか。また学習活動への支援は適切であったか。 |
| (2) 生徒のようす | ペアで教え合いをしたり、グループの友だちからアドバイスをもらったりしたことは、ねらいを達成する上で有効であったか。 |

1 テーマ My Super Monsterについて30語以上の英語で友だちに伝えよう(書く活動)

2 本時のねらい(予想される生徒の姿とそれへの支援)

- (1) My Super Monsterについて30語以上の英語で友だちに伝える学習活動を通して、既習の表現を駆使し、まとまりのある文章を作成する。

[評価規準]

B規準: My Super Monsterについて多少の文法ミスやスペルミスをしながらも30語以上の英語で書くことができる。

A規準: My Super Monsterについて、文と文のつながりを意識しながら、30語以上の英語で書くことができる。

(「英作文がうまく進まない」生徒には、2人のJTEで事前に分担しておき、個別支援を行う。)

(「文と文のつながりがうまくいっていない」生徒には、モデルの英文を参考にさせたり、ペアで教え合いをさせたりして文と文のつながりを意識できるようにする。)

3 授業の流れ

- (1) [課題提示] JTEのモデルから、課題「My Super Monsterについて30語以上の英語で友だち【全体: 5分】に伝えよう」の全体像をつかませ、見通しをもたせる。

- (2) [課題追究I] 日本語の構想メモをもとに、My Super Monsterについて個人で英作文し、ワーク【個人: 15分】シートに書く。

- (3) [課題追究II] ペアでわからないところを教え合い、原稿を完成させる。原稿が完成したら、発表【ペア: 20分】表練習を行う。

- (4) [課題追究III] グループ(4人1組)で順番に発表しあい、各グループのBest Super Monsterを【グループ: 5分】1つ決める。

- (5) [振り返り] ねらいに対する振り返りを行う。

【個人: 5分】

4 成果と課題

[成果]

- ◎本時のめあて(Today's Goal)とともに本時の流れを伝えることで、生徒はやることをイメージできて、ゴールを見据えて学習ができるということがわかった。
- ◎個人で取り組む時間を十分に確保し、できるだけ多くの机間支援で一人一人に助言をすることは、生徒の自力解決力を高める上で効果的であるということがわかった。

[課題]

- A規準である「文と文のつながり」を意識させるために、モデル提示の段階または作成途中での全体への投げかけ、意識づけが必要であった。
- ペア学習の時間をもう少しコンパクトにして、最後に全体の前で代表生徒に発表させれば、授業時間内にパフォーマンスの振り返りもすることができる。

授業観察の視点

(1) **教師のようす** 先生へのプレゼントを考え〈give+人+もの〉を使って相手に自分の考えを伝える学習課題は、適切なチャレンジング課題であったか。また、協同学習は有効であったか。

(2) **生徒のようす** 協同学習は、ねらいを達成する上で有効であったか。

1 テーマ 先生が喜ぶプレゼントを考え〈give+人+もの〉を使って相手に自分の考えを伝えることができる(話す活動)

2 本時のねらい・(予想される生徒の姿とそれへの支援)

(1) 先生が喜ぶプレゼントを考え、メモ程度の英単語を見ながら〈give+人+もの〉を使った英文で相手に自分の考えを伝える。

[評価規準]

B規準:〈give+人+もの〉の英文を正しい語順で使うことができる。

A規準:〈give+人+もの〉の英文を正しい語順で使うことができ、プレゼントを選んだ理由も相手に伝えることができる。

(「単語がわからない」生徒には、辞書を用意する。)

(「理由が書けない」生徒には、動名詞など既習事項の確認を個別に行う。)

(「課題を個人学習の段階で達成してしまう」生徒には、1文ではなくまとまりのある英文を書くよう指導する。)

3 授業の流れ

(1) [課題提示] JTEのモデルから、課題「先生が喜ぶプレゼントを考え〈give+人+もの〉を使って相手に自分の考えを伝えることができる」の全体像を示し、見通しをもたせる。

【全体5分】

(2) [課題追究Ⅰ] 先生が喜ぶプレゼントを個人で考え、プリントにメモする。

【個人5分】

(3) [課題追究Ⅱ] グループ(4~5人1組)でマッピングを使いながら意見をだしあい、先生へのプレゼントを決めその理由を伝えるための英文を考える。

【グループ10分】

(4) [課題追究Ⅲ] 各グループの先生へのプレゼントとその理由を発表する。

【全体5分】

(5) [振り返り] パフォーマンステストを行い、振り返りシートに自己評価を記入する。

【全体5分】

4 成果と課題

[成果]

◎「先生へのプレゼントを考える」という生徒にとって身近で相手意識を持って取り組めるチャレンジング課題だった。

◎協同学習を含め、4技能を使った生徒の活動が多く見られた。

◎振り返りカードが年間指導計画を生徒目線の言葉で書かれている。1時間ずつめあてに対する振り返りや、単元ごとのめあてに対する振り返りができる工夫がある。

[課題]

◎協同学習の時間をもう少し長くとりなど、時間配分の工夫が必要だった。

◎教員がはっきり大きな声で話すと、もっと雰囲気良くなる。

音楽科の実践 I

平成27年11月24日(火) 第6校時
2年1組 音楽室 指導者 朝倉重明

授業観察の視点

- (1) **教師のようす** グループ活動を取り入れて各演奏の特徴をとらえさせ、根拠に基づいて自分の「お気に入り演奏」を選択させたことは、演奏表現の多彩さを感じさせるのに有効であったか。
- (2) **生徒のようす** 各演奏の特徴をグループで意見交換しながらとらえたことは、自分の「お気に入り演奏」を根拠に基づいて選択するのに有効であったか。

1 テーマ 演奏者による表現の違いを味わおう。

[教材；交響曲第5番 ハ短調 / L.V.ベートーヴェン 作曲]

2 本時のねらい[鑑賞]

表現の違いや特徴をとらえ、演奏表現の多彩さを聴き味わう。

3 授業の流れ

- (1) [課題提示] 同じ曲の演奏で、演奏者による違いはあるのだろうか。
- (2) 演奏表現の違いを生じる観点を、いくつかとらえる。(速度、音色、響き方、等)
- (3) [課題追究 I] グループで意見交流しながら、各演奏の特徴をまとめる。
～交響曲第5番、第1楽章提示部・第2主題の冒頭までを比較鑑賞～
- (4) [課題追究 II] 感取した各演奏の特徴をもとに、自分の「お気に入り演奏」を、音楽的根拠に基づき選択する。(チャレンジング課題)
- (5) [振り返り] 本時の学習により学んだことや気づいたことをまとめる。【学習プリント提出】
(演奏者により、演奏表現が多様であることの気づき。各演奏表現の特徴をとらえられたり、それを根拠に演奏選択できたことの達成感…など)

評価規準

- ・自分の「お気に入り演奏」を、音楽的根拠(文章表現)に基づき選択できる。(B)
- ・複数の音楽的根拠に基づき選択できる。(A)

4 成果と課題

【成果】

- ◎演奏表現の比較鑑賞など、魅力的な活動が設定できていた。
- ◎鑑賞の際の明確な視点が提示され、生徒が生き生きとする交流の場が設定された。
- ◎ワークシート上に振り返りスペースが確保され、生徒が自分のことばで、学びや気づきをまとめられていた。

【課題】

- 目的に応じた適切な学習形態の選択を吟味することが必要ではないか。
- 交流を含めた振り返りの時間を確保するために、活動の精選が必要ではないか。

保健体育科学習指導案 1

平成27年9月29日(火) 第3校時

2年1組2組 体育館

指導者 遠藤 仁 大塚 純子

授業観察の視点

- (1) **教師のようす** 目的を共有する仲間(部活動)との活動は、課題解決のために有効であったか。
- (2) **生徒のようす** 運動を選択し、仲間との活動をとおして、実践する意欲が高められたか。

1 テーマ 体づくり 体力を高める運動

2 本時のねらい

(1) 自己の体力に関心を持ち、意欲的に体力を高めようとする。

(2) 運動を選択し、目的を共有する仲間(部活動)との活動をとおして、実践する意欲を高める。

(関心・意欲・態度)

3 授業の流れ

(1) [課題提示] 各部活動の主運動前のトレーニングを仲間と考え実践する。

(2) [課題追究Ⅰ] 各自の課題に応じた運動を学習シートへ記入する。

学習シート④ 6の自分の考え、やってみたいこと、有効だと思うこと

(4) [課題追究Ⅱ] グループ学習(言語活動の充実)

グループ内で各自の記入内容を発表、確認、共有。

(5) [課題追究Ⅲ] グループ学習(運動の負荷、回数、時間)

学習シート(グループ毎)への記入・整理

(5) 振り返り 学習シート④への記入 全体で共有する

6の仲間の考えを知って、いいと思ったこと

各グループ1名 全体への発表

4 成果と課題

○研修の視点、◎明らかになったこと(成果と課題)

○目的を共有する仲間(部活動)での活動は、自己の体力に関心を持ち、課題を解決しようとする意欲を高める上で有効であったか。

[成果]

◎部活動という意図的なグループ編成にしたことが活動意欲を高めることにつながったということがわかった。

◎部活の特性をいかすことのできる課題であったことが生徒の意欲を高めることにつながったことがわかった。

[課題]

◎グループ活動をより充実させるために、個の考えを持たせる時間を確保する必要がある。

◎主活動を充実させるために、導入部分の効率化をはかる必要がある。

保健体育科学習指導案 2

平成27年11月10日(火) 第3校時

2年1組2組 体育館 指導者 大塚純子 遠藤 仁

授業観察の視点

- (1) **教師のようす** 目的を共有する仲間(部活動)との活動は、課題解決のために有効であったか。
- (2) **生徒のようす** 仲間との活動(グループ間交流)をとおして、運動プログラムを考えられたか。

1 テーマ 体づくり 力強い動きを高める運動(筋力・筋持久力)

2 本時のねらい

- (1) 自己の体力に関心をもち、意欲的に筋力・筋持久力を高めようとする。
- (2) 目的を共有する仲間(部活動)との活動をとおして、運動プログラムを作成できる。

(思考・判断)

3 授業の流れ

- (1) [課題提示] 各部活動(グループ)の力強い動き(筋力・筋持久力)を高めるトレーニングを仲間と考え実践しようとする。(吹奏楽部 姿勢を保つための筋力)
- (2) [課題追究Ⅰ] 男子各部活動(グループ)(遠藤)女子各部活動(グループ)(大塚)での活動。各部活動(グループ)の実践を共有する。(ホワイトボードにて発表・共有。)
- (3) [課題追究Ⅱ] 各部活動(グループ)の実践を参考に体を動かしながら、運動を追加したり、強度、時間を再確認・修正する。
- (4) [課題追究Ⅲ] 修正したものを確認。(ホワイトボード 赤で書き加えたり、書き直して)各部活動(グループ)内で共有する。(学習シートへの記入)

(5) 振り返り 学習シートへの記入

4 成果と課題

○研修の視点、◎明らかになったこと(成果と課題)

○目的を共有する仲間(部活動)での活動やトレーニングを紹介し共有したことは、運動プログラムを作成させる上で有効であったか。

[成果]

◎他グループのトレーニングを紹介し共有したことが、よりよい運動プログラムを作成しようという意欲につながったということがわかった。

◎トレーニングの意義や効果を、自分たちで考え実践したことが、自分たちにとってより効果的な運動プログラムの作成につながったということがわかった。

[課題]

◎思考活動を活発にするために、思考する場面での具体的な視点を提示することが必要である。

◎体の動きを文章で表現することは難しい。文章以外での振り返りの方法を考えていく必要がある。

研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ チャレンジング課題を工夫し、生徒の実態に応じて適切に設定することができるようになった。
- ・ ワークシートなどで振り返りの観点を明確にすることで、ねらい（めあて）に即した振り返りができるようになるということが共通理解された。
- ・ 授業1時間ごとの振り返りをワークシートに累積していくことにより、記入と集積、単元全体での振り返りが効率よくできるということが確認された。
- ・ 他グループの考えや実践を紹介し共有したことが、よりよい作品を作成しようという生徒の意欲の向上につながった。
- ・ 単元全体の見通しや本時のめあてを明確に示すことで、目的を意識して学習に取り組もうとする生徒が増えてきた。
- ・ 協同的な学びの場を各教科で設定することで、役割分担や手順がスムーズになり、話し合いが深まるグループが見られるようになった。

(2) 課題

- ・ 振り返りの時間の確保はおおむねできているが、振り返りの視点を吟味するなどし、よりめあてに沿った内容が記述されるようにしていく必要がある。
- ・ 目的に応じた適切な学習形態の選択を吟味することが必要である。
- ・ 個人→ペア→グループ→全体→個人の流れの中で、それぞれの学習形態が機能する、効果的な時間配分を吟味していく必要がある。
- ・ 生徒の交流がより活発になるような課題提示の仕方、生徒の意見の取り上げ方を工夫していく必要がある。
- ・ 生徒の考えを深め、振り返りを充実させるために、全体の交流の場面で、対立意見を出させたり、生徒が葛藤するような意図的な揺さぶりを与えたりする必要がある。

◇ 研修に携わった職員 ◇

校 長	武 井 修	
教 頭	小 林 彦 名	
教 諭	阿 部 政 (教務主任)	栗 原 秀 明 (研修主任)
	朝 倉 重 明	遠 藤 仁
	小 野 達 寿	宮 田 淳 子
	町 田 実	大 塚 純 子
	見 城 朋 子	松 井 太 郎
	男 沢 紗 代	鈴 木 元 氣
養護教諭	堤 久仁代	
事務主事	井 田 健 司	